

企業や大学協力し開発

弘大でCOI特別講演会 研究成果など紹介

文部科学省の「革新的イノベーション(COI)創出プログラム」の事業採択を受け、脳疾患の予兆を早期発見するソフトウェアの開発などに取り組む研究拠点に認定されている弘前大学は11日、全国の拠点で進めている事業を紹介する特別講演会を同大大学院医学研究科で開いた。

同日は神奈川県川崎市のCOI拠点「CO

INS(コインズ)」機構長の木村廣道さんが講演し、高度な技術や知識を持つ企業や大学が協力し、革新的な研究成果や製品開発などにつなげる「オープンイノベーション」などを紹介した。

木村さんは、現在の日本には開発された医療製品などを販売するベンチャー企業が必要としたが「財源や人材の不足が足かせとなっ

て起業まで進まない」と指摘。日本が今後、社会や世界から求められる多様なニーズに対応するには、ベンチャー企業を増やして世界が



講演する木村さん

(下山静香)

投資しやすい環境づくりをするべきとした上で、そのためには「大学や企業が意見を交わしてアイデアを出し合い、製品開発ができる仕掛けを設けることが重要だ」と主張した。